

平成21年度第7回後見的支援推進プロジェクト会議録	
日 時	平成21年11月17日（火）午後2時～3時30分
開催場所	研修センター 602・603会議室
出席者 (敬称略)	<p>&lt;委員&gt; 八島敏昭、坂田信子、瀧澤久美子、坂野圭二、金子恵子、深井浩治 和田千珠子</p> <p>&lt;事務局&gt; 松田米生、高木美岐・大木克之・鈴木和男・岡ノ谷雅之・小池美恵子</p>
欠席者	川島志保
開催形態	公開（傍聴者なし）
議 題	<p>1 後見的支援の仕組みについて</p> <p>（1） 具体的事例を基にした検討</p> <p>（2） ライフステージにおける後見的支援制度</p>
議 事	<p>（1） 具体的事例を基にした検討</p> <p>&lt;事例検討からの議論&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの法人が運営している日中活動やグループホームを利用していると、安定感・安心感はあるものの、親が言いたいことを言いにくくなることもあるようだ。見守りの意味も含めて、法人に所属する人以外の人との出入りが、グループホームにあるとよいと思う。</li> <li>・グループホームから自宅に戻ってくると、本人は近所の人とよく話している。そのような近所の人も含めて、グループホームを市民感覚で覗きにきてくれる人がいるとよい。</li> <li>・本人以外のグループホーム入居者は高齢の方が多いようなので、本人と同世代コミュニティーフレンドなどの存在があるとよい。</li> <li>・以前交流のあった人達との同窓会のような場もあるが、結局は親がかりなので、親がいなくても継続できるような仕組みを作ることができるかが課題だ。</li> <li>・親の担っていた余暇支援を、数に限りのあるあんしんマネジャーが実現することは難しい。</li> <li>・あんしんサポーターの定期訪問については、最初は誰でも初対面同士であるのだから、周囲の人が説明して交流を深めていけばいいと思う。本人も、定期的に誰かが訪問してくれることを喜ぶと思う。</li> <li>・慣れていない人・とこでないと預けられないと思っている親は多い。そのため、現在の活動範囲に対して、時間をかけて慣れていくようにすることが必要だ。</li> <li>・慣れていないと安心して預けられないとしても、いざという時に困るのは本人なので、マネジャーが両親とよく話をしていかなければならない。</li> <li>・親が急にいなくなると、これまで親が果たしてきた「話し相手」や「相談相手」がパッとなくなってしまうことになる。人間であれば、やはり話し相手が必要だが、その時に本人を取り巻くのは「仕事」として接する人ばかりだ。親の役割を100パーセントカバーするというのではないが、そのことはきちんと押</li> </ul>

さえておく必要がある。

- ・地域で暮らす障害者にとって住まいは非常に重要だ。本人の家があるのであれば、サービスを受けながらその家に住み続けられるよう支援を組み立てていくことも考える必要がある。(例：自宅をグループホームにするための仕組みを考える等。)
- ・保護者に対し、どのようであれば安心だと思えるか聞いたところ、親が70代になった場合に本人の住む場所が確保してあることという答えが返ってきた。実際にそこへ入るかは別として、70代まで頑張ればいいという目安がほしいという意見もあった。また、本人がどのような生活をしているとしても、月に1度程度、様子を見に行き行って報告してくれる人がいるとよいという意見もある。

#### <あんしんマネジャーについて>

- ・いくら資質が高い方でも、あんしんマネジャーとして本人の細かい状況を聞くには、ものすごく時間がかかる。やはり信頼関係を築けないと、情報も取れないし、エコマップも作れないと思う。
- ・あんしんマネジャーには、仕事(従事者)の立場ではなく、本人の立場に立ってほしい。機関側ではなく、あくまでも本人の立場とイコール。このことも、今後マネジャーに対して研修していく際には、理念としてうたっていく必要がある。

#### <あんしんサポーターについて>

- ・あんしんマネジャーのような人がたくさんいてほしいが、簡単には育たないだろう。そこで、あんしんマネジャーが担う基本的・本質的な部分は、あんしんサポーターにも担ってほしい。
- ・あんしんサポーターについては、家族や本人から、「この人にあんしんサポーターになってもらいたい」と言ってもらおうという仕組みがあってもいいと思う。その場合には、指名された人がそのままサポーターになるというわけではなく、きちんとした研修を受けてもらい、お願いするという形になるだろう。
- ・あんしんサポーターは将来的に市民後見人候補にもなりうるのではないかと思う。

#### <あんしんキーパーについて>

- ・あんしんキーパーは、あんしんマネジャーができて、急に出てくる人ばかりではない。そのため、本人・家族を小さいときから知っている方が少しでも多くいたほうがいい。

#### <制度の普及について>

- ・この制度が施行されて、登録を希望する人がいたとしても、どのようなことをしてくれるのだろうと疑問に思うかもしれない。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしんキーパーを登録すること自体に、本人や家族は安心感を持つかもしれない。</li> <li>・「あんしん」とは誰にとっての安心であるのかがよく分らないという意見もある。ただし、子どもが安心して満足していれば、親も安心だ。子どもが本当にニコニコ笑ってくれていれば、勇気100倍というのが親なのだ。</li> <li>・どんなに本人とのつながりがある地域活動ホームの相談員も、病院でのやり取りなどの中では、支援者として認めてもらえないこともある。後見的支援制度を広めていく際には、マネジャーに制度で保証された権限を与えるほか、「横浜ではこういう人が動いていますよ」というように仕組みの認知度を高めてほしい。</li> <li>・学校を卒業して社会に出る時や成人式などに、本人や保護者に対して、制度を伝える機会を作ることも必要だ。</li> </ul> <p>(2) ライフステージにおける支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何かあったときのために、「あんしんノート」を作っておくということから始め、あんしんノート書き方講座などを通じて、暮らしをどうしていくかということについて、イメージづくりをしていくべきだと思う。子どもが18歳になる前に、卒業後のライフプランをだんだん描けるような、親自身の力が必要だ。</li> <li>・子どもは大人になるまでによく育たなければならない。単に「あんしんノート」を作ればよいということではなく、親は自主訓練会や親の会などに参加しながら、子どもと一緒に地域の中で育ててほしいと思う。</li> <li>・現在は、子どもを預ける場所を探す親が多いようだが、子どもが家で落ち着いて過ごせるように、家を安心できる居場所にすることも大切だろう。</li> </ul>
資 料	<p>1 資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 後見的支援推進プロジェクト資料</li> <li>2 障害児・者のライフステージと後見的支援・法定後見制度の関り</li> <li>3 障害者とその家族のライフステージ</li> </ul>